

IgH（免疫グロブリン H 鎖）遺伝子再構成《PCR 法》				P000022	
				担当部署	
IgH				病理	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		該当なし			
オーダーリング手順	1	サイボウズ→ファイル管理→54. 病理診断科→遺伝子解析依頼申請書→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		該当なし			
検査受付時間		8 : 15～16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		手術、及び内視鏡、穿刺等の侵襲的検体採取では様々な準備が必要となるため、各々の担当医師、担当看護師等の指示に従う。			
検体採取の特別なタイミング		疾患診断時			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	組織 6mm 角	容器番号 27 滅菌スピッツ管	無	200	mg
2	未染スライドガラス	容器番号 30 遺伝子検査用標本スライド容器	無	5	枚
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		オーダーがない			
保管検体の保存期間		パラフィンブロック：半永久 ＊保管検体から再検査をオーダーする場合は要連絡			

検査結果・報告						
検査室の所在地		病院棟 3 階 病理診断科				
測定時間		8～11 日				
生物学的基準範囲		再構成を認めない				
臨床判断値		該当なし				
基準値					単位	該当なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
パニック値		高値	該当なし			
		低値	該当なし			
生理的変動要因		該当なし				
臨床的意義		血液幹細胞のうち B 細胞系は、免疫グロブリン遺伝子の再構成を繰り返し、分化・成熟して免疫グロブリンを産生する。免疫グロブリンは、2 本の H 鎖と 2 本の L 鎖が S・S 結合した構造をしている。H 鎖は可変領域(V 領域)と定常領域(C 領域)から成り、第 14 染色体長 腕 (14q32.3) に 座 位 し て い る 。 V 領 域 は VH(variable),DH(diversity),JH(joining)の 3 つの遺伝子群から成り、抗原特異性は V-D-J の組み合わせにより決定される。L 鎖は kappa(κ)と lambda(λ)があり、各々 V 領域(Vκ,Jκ と Vλ,Jλ)で V-J 連結をする。K 鎖は第 2 染色体短腕(2p12)に、λ 鎖は第 22 染色体長腕(22q11.2)に座位している。免疫グロブリン遺伝子の再構成には hierarchy(ハイアラキー:順序)が存在し、すなわち H 鎖における D-J 連結ついで V-DJ 連結が起こり、続いて L 鎖の κ ついで λ へと再構成が進む。このため免疫グロブリン遺伝子の再構成のパターンを調べることにより、B 細胞の分化過程の一部を知ることができる。またリンパ球表面マーカーなどの表現型による分類が困難な場合に有用な検査である。				